

市長からの手紙

天理市長 南 佳策

Vol. 125

7月10日、JR東海の山田^{よしおみ}佳臣社長が大阪市内での記者会見で「リニア中央新幹線・東京―名古屋間の環境アセスメントが間もなく終わる。経営安定も大切な使命で、2027年に名古屋まで、ついで45年に大阪までの2段階に分けて開業する」と表明。

また「大阪までの早期完成を目指す沿線の気持ちとは同じ」と前倒しの可能性も述べておられます。

奈良県にとって、とくに私たち天理市民にとっては大きな意味をもつ事業で、いろいろな機会をとらえてアピールしたいと思います。



▲ギネス世界記録に認定の短冊

◎第30次地方制度調査会答申によせて

7月9日、全国市長会の一員として国の都市分権政策センター会議に参加。一橋大学大学院・辻琢也教授から「超高齢化社会における基礎自治体～ポスト合併時代の市町村～」を、翌日は総務省大臣官房審議官・山崎重孝氏から第30次地方制度調査会の動向「基礎自治体のあり方」等について説明を受けました。

○例えば、日本の人口は2004年をピークに長期的に急減する。そして今後100年間で100年前(明治時代後半)の水準に戻る。

- ・ 2050年に日本の総人口は9,515万人に
- 内訳は 若年人口 821万人 (8.6%)
- 生産年齢人口 4,930万人 (51.8%)
- 高齢人口 3,764万人 (39.6%)

○世帯類型からみると2050年には、これまでの主流だった「夫婦と子」は少数派に、代わって単独世帯が4割に。また、単独世帯のうち高齢者単独世帯は、5割を超える。

○過疎化が進む地域では人口が現在の半分以下に。こうした背景の中で人口規模・密度の低下が一人あたりの行政コストを押し上げます。

大都市制度の改革、基礎自治体の行政サービス提供のための新たな広域連携のあり方など、今後の地方制度づくりへの取り組みが始まっています。

◎奈良県消防広域化に伴う要望に参加

7月10日、予算要望活動のため上京中の荒井知事さんに合流。総務省、消防庁へ出向してきました。

これは前月号のこのコラムで概要をお伝えしましたが、奈良県では全国でも例を見ない37市町村、管轄人口90万人という県域消防広域化に向って準備を進めているところです。例えば、消防救急無線デジタル化など県・市町村あげてこの事業を整備していくなかで、「奈良モデル」として県民の安心・安全への着実なスタートの始まりです。

◎～天理発世界記録に挑戦～1万人の七夕チャレンジ

みんなの願いごとを書いた短冊を1本の竹に飾り、世界記録を目指そう、と天理青年会議所のみなさんが7月6日(土)午後3時から8時まで石上神宮の境内で催したもの。市内各地から集められた12,608枚の短冊が華やかに揺らぎ、同時開催の「七夕宝剣祭り」の賑わいの中で、みごとにギネス世界記録に認定され、会員の顔も輝いていました。

8月

You & I

ロビー・コンサート

市役所ロビー 12時20分～

9日 ソウミュージック

(のこぎり音楽)

“くまさんと仲間たち”

～松本 勤 ほか～

鉄腕アトム／高井達雄作曲

荒城の月／滝 廉太郎作曲 ほか

23日 天理中学校箏曲部

二つの個性／藤井凡大作曲

グリーンウィンド／吉崎克彦作曲 ほか

次回は9月13日(金)

「ピアノ デュオ」お楽しみに!

皆さまの温かい善意
ありがとうございました

善意銀行

北川慈照 様	300,000円
匿名 様	車イス1台 (簡易折りたたみ式)
フジモトHD株式会社 様	車イス2台

ご寄附いただきました

(ふるさと天理応援寄附金)

大和少年ラグビークラブ 様	103,514円
---------------	----------